

Gpress せたがや

第9号

2011年
9月20日
発行

2011年9月20日発行

発行／世田谷区発達障害
相談・療育センター
業務受託／社会福祉法人 嬉泉

山田洋次監督・鶴島緋沙子氏 対談によせて

自閉症の息子さんとの日々から着想を得て、映画「学校Ⅲ」の原作となった「トミーの夕陽」を書かれた鶴島緋沙子さんご縁があり、今回この映画をつくられた山田洋次監督と鶴島さんの対談をお願いすることになりました。

山田監督の作品には、「寅さん」などに代表されるように、人間に対する非常にあたたかく、幅広い視線を感じます。「学校Ⅲ」の中の自閉症の青年は、私が思うに人間関係の育ちがいい。これは家族や地域、周囲の人たちが安定して彼を受け入れているからだと思います。山田監督には、自閉症の人を描いた映画作りを通して感じられたことを是非お話していただきたいと思いました。

私も長年自閉症の方たちと接してきましたが、どの人も素直で、透明でまっすぐに、純粋に生きているのに周りからはわかってもらえない。そういう点で、山田監督が映画の中で取り上げられた社会をひとつの社会モデルとして、私たちは大事にしていかなければいけないと思います。

社会福祉法人嬉泉 石井哲夫



写真：山田洋次氏

世田谷区発達障害
相談・療育センター
ってどんなところ？

発達障害のある方、またはその疑いのある方、その家族、関係者を対象としています。また、世田谷区の発達障害に対する支援を推進するための中核的な拠点施設として関係機関への支援や、広く区民の皆様へ、発達障害について理解してもらうための活動をしています。

《世田谷区在住の発達障害児者、またはその疑いのある方を対象としています》

まずはお電話ください ☎03-5727-2236 【相談専用番号】